

# The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

January  
ISSUE



January, 2020  
Volume 98

## Message from the Head of Schools

Seasons Greeting and a Happy New Year あけましておめでとうございます

日本の教育の目的は「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期す」であり、目標は、以下の通りです。

- 1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

そして、この4月からの小学校学習指導要領で、特に具体的に挙げられているところを抜粋すると、次の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、児童に生きる力を育むことを目指すものとする。

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。
- (2) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
- (3) 学校における体育・健康に関する指導を、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。

これらにより、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。この三つは、知識・技能の習得、能力の育成、態度の涵養と書かれることもあります。(大学でも同じ括りで使われます)

この度の改定では、授業時数を増加させていますし、言語活動、理数教育、伝統や文化に関する教育、道徳教育、体験活動、外国語教育の充実に示しています。また、情報教育の充実も謳っています。

国際学院初等部では、一条校としてこの改定指導要領に準拠しつつ、IB プログラムに沿った教育を展開いたします。バイリンガルで行われる本校の教育は、指導要領の方向性を含んでいると考えていますが、理科と社会については、変更点を含め、Unit の学習内容に当てはめていく必要があります。指導要領の中にも、家庭や地域社会との連携について示されており、Learning Community とも合わせて、一緒に進んでいきましょう。

学校長 太田 哲男





## キリスト教 教育テーマ

### 1月：信頼 January: Trust

「一人の罪人が悔い改めるなら、神の天使たちの間に喜びがある。」

聖書協会共同訳 ルカによる福音書15章10節

私は小学五年生の時に初めて「ああ無情」を読んで、大変感動しましたので、その後何年も、人から一番感動した本は何かと尋ねられたら、「ああ無情」です、と答えていました。今でも、私がこれまでに読んだ本の中で敢えて順位を付けるとすれば、この物語は必ず上位にランクインします。けれども、少し成長してから完訳本の「レ・ミゼラブル」を読み始めた時、小学生の頃とはまた違った、いろいろな視点が見えて来て、感動の形が少し変わったのも事実です。我々はよく、物語のあらすじだけを見て、登場人物があたかも生まれつきそのような性格を持っていて、役割が固定されているかのような錯覚に陥ります。でも、現実の人間はもっと複雑で、一つの性格が形造られるには、それなりの要因と年月が必要です。刑務所から出て来たばかりの主人公ジャン・バルジャンが、どこへ行っても白い目で見られ冷たい仕打ちを受ける中、たった一人、彼を温かく迎え入れてくれたのが、教会の司教さんでした。にも拘らず、ジャン・バルジャンはその司教さんを裏切って盗みを働き、逃げ出してしまいます。この場面を読んだ小学生時代の私は、このように考えました。「とても残念なことだけど、この人に降りかかった災難と苦労の年月が、この人を本物の犯罪者に仕立てあげてしまったのだろう。」何といたって主人公ですから、理解しようとする気持ちがありました。しかしながら、他の登場人物については、その人の背景を深く考えたことはありませんでした。母一人子一人なのに最愛の娘を遠方の他人に預け、朝から晩まで低賃金で働いて、挙句の果ては身売りまでして娘の養育費を仕送りしていた女性、ファンチヌー彼女が病気で死んだ場面には、何と幸薄い人生であったかと、同情を禁じ得ませんでした。一方、そのファンチヌーを人扱いせず、せっかく静かに人生をやり直している主人公ジャン・バルジャンを、仮釈放中に逃亡した囚人、ということで執拗に追いかけて回し、決して赦そうとはしなかったジャヴェール警部に対しては、何と心の冷たい、嫌な人間だろうと思っていました。しかしながら、このような感想がいささか短絡的だと悟ったのは、原作をじっくりと読んで、登場人物の詳しい背景を知った時です。以前の同情心や嫌悪感、微妙に揺らぎました。例えば、ファンチヌーは身寄りもなく、初めて付き合った男性が狡猾な遊び人で、彼に捨てられた後で妊娠に気付くという、確かに哀れな身の上ではありました。けれども彼女がもう少し思慮深く、慎重でさえあったならこんな目に遭わずに済んだのでは、と思わせる節があったのもまた事実です。なぜなら浪費癖など、遊び人の男性と一緒にいた頃の悪い生活習慣が、いつしか彼女自身のものになってしまっていたからです。また、血も涙もない鬼警部だと思っていたジャヴェールには昔、両親が二人とも囚人で、監獄の中で産声をあげたという過去がありました。成長してから並々ならぬ努力でどん底から這い上がり、警部にまで上り詰めた人だったのです。不利な環境にも負けないで、向上心を持って努力を続けることは大変立派なことですし、そういう意味でこの人はジャン・バルジャンやファンチヌーよりも遥かに意志が強く、優れています。自分に強い正義感と勤勉さがあったからこそ、法を守らない前科者や、娼婦を生業にしている人のことを許せなかったのでしょう。私はジャヴェール警部の生い立ちを知った時、「放蕩息子」の話に登場する、「兄」のことを思い出しました。聖書の中でも特に有名なたとえ話です。

真面目で忠実な性格の兄は、いつも父親の仕事を手伝ってよく働いていました。他方弟の方は、父親がまだ生きているうちから財産分与を要求し、自分の取り分をごっそり持って家を出ますが、旅先で全て浪費してしまいます。今日食べる物にも事欠くようになって初めて、弟は自分の過去を反省し、実家に帰って父に謝ろう、今後は息子ではなく、使用人の一人として父に仕えよう、と決心します。ところが父親は、弟が帰って来るとまだ遠くにいるうちから彼を認め、走り寄って来てしっかりと抱き締め、すぐに上等な服に着替えさせました。使用人どころか、手には主の息子の印である指輪をはめてやり、自分の財産である家畜の中からよく肥えた美味しそうな子牛を料理して、飲めや歌えの大宴会を催し、喜びを表現したのです。さて、収まらないのは兄の方です。「自分は長年、文句一つ言わずに父に従い、忠実に仕事をこなしてきた。それなのに、友人と飲み食いするために子山羊一匹、料理してもらったことはない。さんざんしたい放題のことをして、父の大事な財産を失って帰って来た弟がどんな苦労をしよう、それは自業自得ではないか。父はなぜ、あんな風に弟ばかりをチャホヤするのか。」兄がこのように考えたとしても、それはもっともな怒りではないでしょうか。このたとえ話の「父親」は父なる神、「兄」と「弟」は人間の姿です。皆さんなら、兄弟どちら側に感情移入しますか。今までの苦労や努力が一応報われ、人生勝ち組で過ごしてきた人は、「兄」のような考え方をするのが普通です。「レ・ミゼラブル」のジャヴェール警部は、その典型的な人物と言えましょう。では、自分なりに努力しているつもりなのに、万事がうまくいかず、敗北感を持って暮らしている人は、どうでしょうか。実はこういう人たちの大半も、別な意味で「兄」に共感している人であると言えます。ジャン・バルジャンもファンチヌーも、もともとは誠実な心を持った人達でした。ただ、どこかでボタンを掛け違えたために、人生そのものが大きく狂ってしまったのです。ジャヴェール警部のような人にとっては、前科者や娼婦というだけで全て身勝手な「弟」に見えるのかも知れませんが、「こんなに一生懸命生きているのだから、自分の行いは報われるべきだ」と考えている「兄」側に立つ人間というものは、案外多いのです。自分はずっと「兄」のような気分であつたけれど、実は「父親」に赦しを請うべき「弟」の方だったのだ、ということに途中で気が付いたのが、主人公のジャン・バルジャンです。自分の不幸な境遇を嘆き、運命を呪い、人を憎んでいる間、彼は「前科者」の肩書に相応しい中身をしていました。けれども、法的に罪を犯した、という表面に現れた事実とは全く別な次元で、自分の本当の罪深さ一神の御前に傲慢であったこと一に気付いた時、彼は新しく生まれ変わることができたのです。

#### <参考図書>

「レ・ミゼラブル」(一)～(五) ユゴー 作 佐藤 朔 訳 新潮社 2012

「ジャン・ヴァルジャン物語」上・下 ユーゴー 作 豊島与志雄 訳 岩波書店 1987

Christian Education Committee 石川真弓

#### <お知らせ>

次回のおにぎり献金は、1月14日(火)です。

# PYP NEWS

PYP 保護者学習会を 11 月 19 日に開催しました



11月19日(火)にLearner ProfileとLearning CommunityをテーマにPYP保護者学習会を行いました。70名を超える保護者の方が学習会に参加下さいました。開始前には、「PYPと聞いてイメージするもの」を皆さんに3つあげていただいた後、目まぐるしく変化する社会においてなぜPYPや探究が必要であるかをお話しました。その後は「Reflective 振り返りができる人」になるためにLearner Profileを使ったReflectionの活動やアンパンマンに登場する3人のキャラクターをメインにディスカッションを行い、後半にはLearning Communityをテーマに、IBOの公式資料(Making the PYP happen 日本語版 P. 48 大人の役割)を活用して、保護者が教育に関わる意味についてお話ししました。

10あるLearner Profileを理解した上で、子どものことを考えることはあっても、保護者の皆様が自分自身を振り返ることはあまりないのではないのでしょうか。またLearner Profileは非常に便利な言葉であるため、「Caring な人になりたい。」「Risk-taker になってチャレンジしよう。」等のような形で用いる際、具体的な意味が曖昧になってしまうことがあります。今後も保護者の皆様と共に、Learning Communityとして学校と保護者が「協力的な相互関係」となって子どもたちを育てていけるよう、定期的にPYP保護者学習会を開催していきたいと思っております。

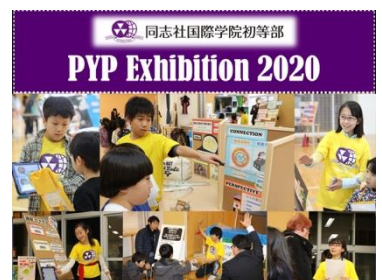
## PYP Exhibition 2020 を 1 月 30 日・31 日に開催します

年が明けた1月30日(木)と31日(金)に6年生が探究型学習の集大成を発表するPYP Exhibition 2020を開催いたします。

6年生は「Who We are」を教科横断的テーマに、「人々の情熱や才能は、社会に貢献するための原動力となる。」をCentral Ideaとして、6月25日の説明会を皮切りに半年かけて探究に取り組んでいます。自分の才能や興味のあるトピックの中から、半年間情熱をかけられるものを選び、7つ全てのKey Conceptを視点として探究をしています。普段のUnitでは2つ3つの視点での探究になるので、比較するといかに幅広い視点で深く探究していくかをお分かりいただけるのではないかと思います。

探究する中で生まれる思いをもとにActionを行って「社会に貢献」します。ここでの「社会」は、在校生、保護者、先生、学校、地域、企業など大きさは様々で、そこに対して何かを周知、参加、体験、問題提起、問題解決する形で「貢献」します。これまで、校内で在校生・保護者・先生に対してワークショップを行ったり、ボランティアに参加する児童、施設や病院などにポスターやチラシを置いてもらったり、様々なActionに取り組んできました。

ExhibitionはPYP認定を受けてから求められるものですが、私たちは最初の6年生ができた2014年から始め、今年で6回目を迎えます。試行錯誤で始めた1年目を皮切りに、年々ハードルを上げ取り組んでまいりました。今では受験希望の一般の方や同志社関係者、PYP校、私立小学校などの教育関係者も見学に来られるようになりました。ここまで取り組んでこられたのは、頑張ってきた卒業生とその子どもたちを支えてくださった保護者の皆様、そしてお客さんとして来ていただく在校生の保護者の皆様のおかげです。是非今年もたくさんの保護者の皆様に来場いただき、6年生の勇姿をご覧いただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。



1月30日(木) Pre-Exhibition 14:10~ブース発表 15:10~閉会式(予定)

1月31日(金) Exhibition 17:30~Opening Ceremony 18:00~ブース発表 19:00~閉会式(予定)



## 干支にちなんで「ハリネズミの願い」から考える事

あけましておめでとうございます。

新しい年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう祈念いたしています。さて、日本で新しい年と言えばやはり干支が話題となります。

今年の干支は「子・ね・ねずみ」ですね。

「ねずみ」が登場人物の本は本当にたくさんあります。

『まちのねずみといなかのねずみ』イソップ原作、ロングセラーの『ぐりとぐら』中川李枝子作、『フレデリック』を始めとするレオ・レオニのねずみのお話、子どもの大好きな『ねずみくんのチョコッキ』を初めとするなかえよしをさんのねずみくんシリーズ、2年生の国語の教科書（東京書籍）にも出てくる『にゃーご』宮西達也作、いわむらかずお作『14ひきの・・・』のシリーズ、全体も見ることの大切さについて考えさせられる『Seven blind mice』Ed Young・・・等、本当にたくさんあります。

そして少し前に話題になったのが『ハリネズミの願い』トーンテレヘン



の本です。ここからは、2019. 1.14 の朝日新聞の天声人語から引用します。「ひとりぼっちのハリネズミが手紙を書いた。ゾウやカメ、モグラたちのことを考えながら。「親愛なるどうぶつたちへ ぼくの家にあそびに来よう、キミたちみんなを招待します」。そして付け加えた。「でも、だれも来なくてもだいじょうぶです」誰かに訪ねてきてほしい。でも本当は、会うのが怖い。そんなふうになんか行きた戻りつるのがテヘラン著『ハリネズミの願い』の主人公である。

書いた手紙を出さないまま、動物たちが来たらどうなるか、家に閉じこもって想像を続ける。彼の心配は、尖ったハリがみんなに嫌がられることだ。ハリが比喻するものは、誰かを傷つけるかもしれない自分の性格か。あるいは誰からも傷つけられたくないという防御の姿勢か。ハリネズミの孤独は、意外とありふれたものかもしれない。・・・これは、



昨年成人の日にかかれた文章です。私は、この本を読んで、本を読むとは、文学を読むとは、自分を見つめ直すことかもしれないとも思いました。ハリネズミを通して自分に置き換えて考えてみる。そして自分だったらと問い直してみる・・・読書は人生を深く思慮深いものにしてくれるものでもあると思います。

ご紹介した本は、すべて DIA Library にあります。

どうぞ1冊でも手に取って読んでいただけたらいいなあと思います。

(司書教諭 上里 久美)

Library SG さんによる1月の掲示です。コーナー展示はもちろんねずみです。

## 1月の主な行事・予定

1	Wed	元旦
2	Thu	
3	Fri	
4	Sat	
5	Sun	
6	Mon	始業礼拝 PYPミーティング(4時間授業)
7	Tue	Unit5(week5)
8	Wed	委員会
9	Thu	
10	Fri	通学MT 冬休みに借りた本を返す期限日
11	Sat	
12	Sun	
13	Mon	成人の日
14	Tue	Buffer week G4推薦進学説明会
15	Wed	クラブ G2校外学習
16	Thu	
17	Fri	避難訓練(G1・G3・G5 引渡し訓練)
18	Sat	
19	Sun	
20	Mon	Unit6(week1)
21	Tue	G1 ゲストティーチャー(月の光)
22	Wed	クラブ
23	Thu	校祖永眠の日(休校)
24	Fri	
25	Sat	
26	Sun	
27	Mon	Unit6(week2)
28	Tue	
29	Wed	クラブ
30	Thu	G6-Exhibition オープンスクール
31	Fri	G6-Exhibition オープンスクール

## 2月の主な行事・予定

2/5 (水)	研究会【午前授業】
2/11 (火)	建国記念日・立石杯英語大会
2/14 (金)	タレントショー
2/22 (土)	土曜参観・学期報告会【午前授業】
2/24 (月)	代休